

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全5枚)

氏 名 川下 勉

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)	<p>令和7年度当初予算編成について 成長戦略の実践について</p> <p>令和7年度は合併20周年、また宮元市政3期目最後、市議会議員にとっても任期満了といった加賀市政の節目の年である。提案理由説明では、「人材育成と教育」、「イノベーション導入による産業集積」の2本柱で「未来への夢と希望の成長戦略」を実行し、選択と集中による予算配分を行うとしていたが、成長戦略を具体的にどのように実践し、どのような施策について選択と集中を図ったのか。</p>	
	(2)	<p>① 一般会計について 予算総額の増加について</p> <p>一般会計は417億2,700万円と、前年度に比べて約74億5千万円増加、21.7%の増加としている。当初予算としては過去最高ではないかと思われるが、大幅増加の主な要因について問う。</p>	
		<p>② 財政調整基金の取り崩しゼロと残高見込みについて</p> <p>令和7年度の財政調整基金の取り崩しはゼロとしている。一般論として財政運営の観点からは評価すべきと思う。ふるさと納税の強化や都市計画税の増額はすでに聞いているが、そのほか、財政状況が依然として厳しい中で、また歳出を大きく伸ばす中でどのようなやりくりをして財政調整基金取り崩しゼロ予算にすることができたのか。</p> <p>また、財政調整基金取り崩しゼロとはいえ、その残高は令和7年度末見込みで5億5,800万円と令和5年度末から10億円以上減少する見込みである。特に令和6年度中の減少が大きい。どのような臨時的な財政需要や年度間調整があったのか。</p> <p>また、監査委員が示す18億円、加賀市財政計画の9億円を下回り、持続的・安定的な財政運営の面からは心配である。これを踏まえ、今後の財政運営方針について示せ。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全5枚)

氏 名 川下 勉

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
(3)	①	<p>企業会計について</p> <p>水道・下水道事業会計について</p> <p>昨年9月の予算決算委員会でも指摘したとおり、企業会計の経営は「母家」であるところの、一般会計の財政を左右する要因と成り得る。</p> <p>当初予算では水道事業は赤字予算、下水道予算は黒字予算としている。今後、市民生活に不可欠なライフラインとして、管路の耐震化や老朽化対応の必要性が高まることが考えられ、施設整備の強靱化を進めながら、経営の健全化を図る必要がある。</p> <p>予算決算委員会や12月定例会の答弁によれば、水道事業では経営ビジョンの策定、また、下水道事業では経営検討委員会の立ち上げを行ったようであるが、水道ビジョン、検討委員会それぞれにおける経営健全化の検討状況とそれを踏まえた対応方針を示せ。</p>	
	②	<p>病院事業会計について</p> <p>病院事業の経営が厳しいと聞いており、令和6年度3月補正では一般会計から3億円の借入を計画している。診療報酬制度など構造上の問題で、自治体が経営する公立病院共通の課題であると思うが、市民生活の根幹を支える地域医療の中核病院として、大変憂慮すべきことである。こうした経営悪化の要因と、その対応方針を尋ねる。</p> <p>また、当初予算に基づく貸借対照表は、負債の総額が資産の総額を上回る「債務超過」となっており、直ちに対策チームを立ち上げて、外部有識者にも知恵を借りながら経営健全化に着手しなければならないと考えるが、所見を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全5枚)

氏 名 川下 勉

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
2 (1)	<p>公共施設の在り方について スポーツ施設の在り方について</p> <p>当初予算では、スポーツ施設の改修に 10 億 5 千万円を計上し、令和 6 年度から令和 8 年度までに計画している事業費は 16 億円に上る。</p> <p>公共施設マネジメントの基本方針に基づく取り組みをそれなりに行ってきていることは理解するが、少子化・人口減少を踏まえて、将来を見通した、公共施設の在り方を検討する方針があるのではないか。こうした在り方を真剣に考えてほしい。当局の認識を尋ねる。</p> <p>3 年前に公共施設の外部検討委員会に一部の施設について在り方を検討していただいたが、その際の総務経済委員会の議論で、公共施設の配置の考えとして、近隣自治体と合同で設置するとか、広域での配置を考えてもよいのではないかといった提案が出ていた。公共施設マネジメントは、いまや一つの自治体だけでなく、広域でとらえる時期にきているのではないか。総論としての賛同はあっても、各論に入ると難しい取り組みかもしれないが、こうした在り方を真剣に考えて欲しい。認識を尋ねる。</p>	
(2)	<p>ゆけむり健康村について</p> <p>ゆけむり健康村については、先月の全員協議会で報告があったとおり、プロポーザルでの提案は、今の物価高騰などの状況下では実現困難として、いったんリセットし、改めて現在の施設の活用にこだわらない活用を考えていくことになったと理解している。</p> <p>令和 4 年の外部検討委員会で「市による運営継続は困難である」との検討結果が報告されており、併せて可能性が示された民間活力を活用する道もふさがった状態である。今後、検討委員会の検討結果を踏まえた対応が必要だと思うが、見解を示せ。</p>	

発言通告書要旨 (4枚目/全5枚)

氏名 川下 勉

発言番号	発言事項及び発言要旨	備考
3 (1)	<p>令和7年度当初予算の個別事業について 赤平市との友好都市30周年事業について</p> <p>12月定例会での質問のとおり、明治28年に、当時の動橋村を中心とした人々が現在の赤平市の基礎を築いた関係で、平成7年10月に友好都市提携をして30年を迎える。そこで、記念事業を実施し、近年、途切れがちとなっている交流をきちんと再開してはどうかと提案したところ、今般の当初予算に事業費330万円が計上された。私の地元動橋町と特に関わりのある赤平市との交流再開は、大変喜ばしく思う。</p> <p>そこで、30周年事業の実施時期、訪問、交流事業の具体的な内容について尋ねる。また、今後途絶えることなく継続していくべきと考えるが、どのような方策を考えているのか。</p>	
(2)	<p>産業用地について</p> <p>① 次世代型産業パークの全体スケジュールと地元協議等について</p> <p>片山津IC産業団地の次の産業団地「次世代型産業パーク」について、小塩辻工場団地に近い、高尾町の約50ヘクタールを選定し、そのうち20ヘクタール程度を整備することとして約1,700万円が計上された。市民からの「働く場の確保」の期待やニーズは大きく、また、ビジネス面での新幹線効果も期待できると考えられ、事業の推進を望むものである。そこで、この次世代型産業パークの計画地の場所を含めて全体計画と事業スケジュールについて改めて尋ねる。1期の20ヘクタールの分譲開始は令和9年度と聞いたが、全体の完成はいつを予定しているのか。</p> <p>また、事業計画についての現時点での地元との話し合い状況、農業振興区域など諸条件に関する石川県の他関係機関との協議の状況についても示せ。</p>	
	<p>② 小塩辻工場団地用地の有効活用について</p> <p>島津製作所に分譲済の工場用地は長年遊休状態となり、産業用地としての役割が果たされていない。新たな産業用地の整備を否定するものではないが、市が分譲した産業用地の遊休状態の解消も次世代型産業パークと同程度の力を入れて取り組むべきではないか。島津製作所用地のこれまでの経過と、今後市としてどのような策を考えているのか、所見を問う。</p>	

発言通告書要旨 (5枚目/全5枚)

氏名 川下 勉

発言番号	発言事項及び発言要旨	備考
(3)	<p>① 北陸新幹線加賀温泉駅周辺整備について 北陸新幹線誘客促進・インバウンド推進事業について</p> <p>昨年の観光入込客数は、北陸新幹線の延伸開業効果が着実に現れてきているとの見解が、先の提案理由説明で示された。観光は裾野が広い産業であることから、これを持続させるための誘客促進、また、インバウンドの推進を図るの必要があり、入湯税を使って注力すれば良いと考える。</p> <p>観光客の関心やニーズの変化が多様化している中で、常に新しい工夫が必要だと思うが、令和7年度の新幹線誘客促進・インバウンド推進の中ではどのような新たな取り組み、あるいは発展的な取り組みを考えているのか。当局の所見を問う。</p>	
	<p>② 未来型商業エリアについて</p> <p>アクセス整備として、未来型商業エリア南側の市道C583号線整備事業費が計上されたが、令和7年度からの4年間で21億円の事業費を見込んでいることから、計画的に進める必要があるのではないか。また、未来型商業エリアに関する市としてのインフラ整備は、道路のみならず上下水道などの整備予定とその投資額について尋ねる。規模が大きくなる場合は、財政的にも年度間のバランスに留意して行うべきと思うが、当局の見解を尋ねる。</p>	
(4)	<p>① 災害用備蓄品購入事業について 指定避難所等機能強化支援事業について</p> <p>令和6年12月定例会では、石川県西方沖地震への備えの強化を提案したが、当初予算の主要事業として、備蓄品等の整備に約1,600万円が計上されたことは評価したい。そこで指定避難所等機能強化支援事業費約600万円の詳細な事業内容について尋ねる。また、機材として例示されたスターリンクの整備は、令和6年能登半島地震でも活躍したと聞いているが、その詳細について示せ。</p>	
	<p>② 備蓄品の購入について</p> <p>今後、各自治体の災害備蓄状況について公表が義務付けられるとの報道も目にしたが、今般の備蓄品として例示されたミルク、アルファ米、保存水の備蓄計画（計画数とその根拠、現在の備蓄数と購入年次計画など）を具体的に示せ。</p>	